

道北地域コンテナ苗現地検討会について（平成 25 年 10 月 4 日開催）

実施目的

コンテナ苗については北海道では、平成 21 年度からコンテナ苗の育苗が始まっており、当センターでも平成 23 年度から北海道の林業の主要樹種であるトドマツ、アカエゾマツ、カラマツ等のコンテナ苗を従来の普通苗と共に現地に植栽し、成長調査等を行っています。

この検討会は、コスト削減をめざした新たな育林技術であるコンテナ苗について、低コストでの育林が根付く取り組みとしてコンテナ苗に関する技術の確立や今後の方向性を見いだすという観点で実施したものです。

現地検討会

検討会では、実際の現地で成長状況などを直接現地で視察していただきました。森林技術・支援センター所長から試験地の林況や取組概要、コンテナ苗と普通苗の植栽での功程調査、活着・被害状況、生長状況について説明があり、当試験地ではカラマツコンテナ苗の成長が良いことから普通苗と並列で植栽したコンテナ苗の植栽列を中心に視察してもらいコンテナ苗の成長の早さ、活着の良さなどを参加者に実感していただきました。併せてカラマツコンテナ苗の成長が早いことから下刈りの回数削減を検討している話もさせていただきました。

室内討議

午後からは、室内討議ということで、場所を士別市民文化センター研修室に移し、最初に低コスト造林に向けたコンテナ苗植栽の取組事例について、上川北部森林管理署と森林技術・支援センターから紹介があり、次に講師（森林総合研究所北海道支所）と聞き手（センター副所長）による討論、参加者の方と意見交換、最後に講師に全体のコメントをいただきました。

・内容

講師と聞き手による討論では、テーマを「コスト削減をめざした森林整備の取り組み」～コンテナ苗による省力造林に向けて～と題して、①コンテナ苗について→北海道にあったコンテナ苗の開発・普及で新しい「低コスト林業」を確立、伐ったら直ぐに植える「一貫作業システム」の普及を図る。②コスト削減と省力造林について→下刈り回数の見直し下刈り回数について固定概念に捕らわれず、必要があるものは見直す方向で進むことが賢明と思われる。などの提言もなされました。

参加者からは、上川北部森林管理署と森林技術・支援センターの取組みに関してやコンテナ苗の価格の動向などについて質疑応答があり活発な意見交換となりました。

講師より最後のまとめとして、林床の笹再生におけるバックホウの優位性について北海道の笹地においても「一貫作業システム」で行うバックホウは、人力地拵より優位でありコンテナ苗が普及していけば、低コスト林業へつながるものと考えている。とのコメント

があり、日程を終了しました。

まとめ

森林・林業の再生のためには、造林・育林コストの低減は非常に重要です。

今回の現地検討会では民有林と国有林の関係者が参集し、次世代を担うことになるであろう新たな育林技術であるコンテナ苗について、試験地の現地視察及び講師・参加者との意見交換や討論などにより、コンテナの今後の方向性などについて共有を図ることができ、大変有意義なものとなりました。